

令和6年度第2回京都府地域クラブ部活動推進検討委員会

資 料 Ⅱ

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

- ・少子化が進む中でも、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保することを目的とし、「地域の子ども達も達は地域で育てる」という意識の下、地域のスポーツ・文化資源を最大限活用した地域クラブ活動の構築を目指している。
- ・市民体育館等を管理する公園施設事業団や文化施設を管理する文化事業団の方々を委員として招聘し、多方面の理解と協力を得られる体制を構築する。

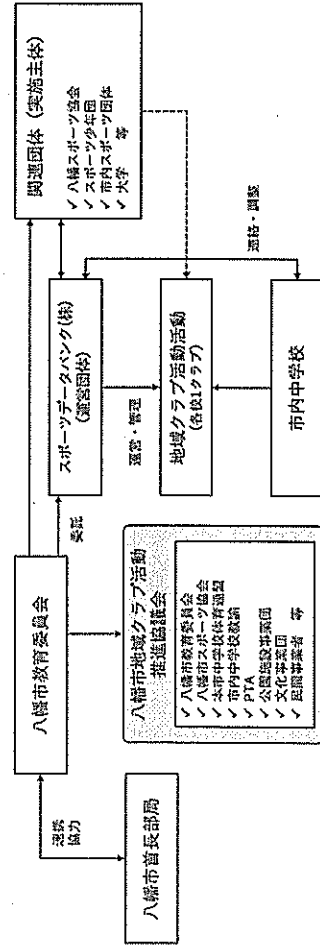
2: どのようなゴールを設定しているのか? (めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど)

- ・令和6年度は、実証事業に取り組むことにより、担当顧問の負担感が軽減していること、ならびに生徒や保護者の満足度が向上していることを目標達成の指標とする。負担感の軽減や満足度については、アンケート結果や指導内容項目により判断する。
- ・単一の仕組みでは対応が困難なため、地域の指導者への委託のほか、単独型、拠点校方式を見据えた単独型、合同型、イベント型、教員の兼職兼業も含め、様々な形を取り入れた「八幡市モデル」を実施することにより、令和8年度全面実施（休日のみ）に向けた試金石とする。

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

- ・今年度は、実証事業を受託し、八幡市地域クラブ活動推進協議会を立ち上げ準備を進めている。各中学校へ２回目の教員向け説明を行い、段階的に議論と周知を進めてきた結果、教員の地域クラブへの理解が徐々に浸透してきている。トップダウンではなく、学校との連携で、より良い形での模索が進んでいる。
- ・保護者説明会を実施し、１０月より試行という形で１校１部活程度のモデルケースとしてスタートする。
- ・次年度は、運動部：各校３部活（１＋新規２）、文化部：１部活（吹奏楽の合同を想定）の実証を予定している。

圖書體制運



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組1例）

- (1) 運営類型：イベント型
- (2) 運営主体：スポーツタータバンク株式会社
- (3) 種目：女子バスケボール
- (4) 指導者の主な属性：八幡市バスケットボール協会
- (5) 1 か月あたりの平均的な活動回数：1
- (6) 主な活動場所：中学校の体育館
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車
- (8) 1 人あたりの参加会費等（年額）：無料
- (9) 1 人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円（運営側負担）

京都市地域クラブ活動推進検討委員会における事業実施状況報告（概要）

綾部市

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

少子化の影響により、生徒数の減少からチームが結成できない等、従前のような部活動の運営ができていないため廃部・休部となり、部活動の種類が減少している状況にある。また、今後、少子化が進むことが予想され、さらに部活動の存続が難しくなっていくと考えられる。そのため、部活動でやりたい競技を選択できない生徒が増えている。

2：どのようなゴールを設定しているのか？（めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど）

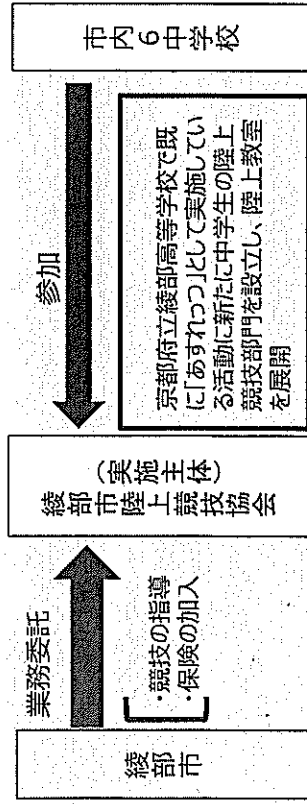
子どもたちが多様な活動を体験できる機会と、少子化の中でも将来にわたり活動を継続して取り組むことができる環境の整備を目指している。

- ・令和5年度には検討委員会を立ち上げ、地域移行の受け皿となる団体の把握や児童・生徒・教職員・保護者のニーズ調査を実施。
- ・令和6年度は、バレーボールと陸上競技において実証事業を実施。小規模校の生徒も様々な競技を選択できるよう合同部活動・拠点校部活動の検討。
- ・令和7年度以降は、実証事業を展開する競技を順次増やしていく、最終的には全競技の地域移行を目指す。

3：今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

- ・在籍校に希望する部活動がない生徒が活動できる場をつくる、生徒数の減少により活動が難しい部活動の救済等のため、市内の部活動の休日の拠点校部活動、合同部活動を進める。
- ・拠点校部活動、合同部活動等の休日の活動に外部人材など指導者の確保を進める。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（陸上競技）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| (1) 運営類型 | ： 開放型地域クラブ連携型 |
| (2) 運営主体 | ： 綾部市陸上競技協会 |
| (3) 種目 | ： 陸上競技 |
| (4) 指導者の主な属性 | ： 綾部市陸上競技協会会員 |
| (5) 1か月あたりの平均的な活動回数 | ： 4回 |
| (6) 主な活動場所 | ： 京都府立綾部高等学校 |
| (7) 主な移動手段 | ： 保護者による送迎 |
| (6) 1人あたりの参加会費等（年額） | ： 参加者負担なし |
| (7) 1人あたりの保険料 | ： 生徒800円／指導者1,850円 |

京都府地域クラブ活動推進検討委員会における事業実施状況報告（概要）

宮津市

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

◆現状と課題

- ・中学校生徒数の減少による学校部活動所属人数の減少（大会参加に影響）
- ・部活動設置数の減少により個々の希望種目が限定
- ・地域でのスポーツ、文化団体と学校との連携に課題

活用できる資源

- ◎地域のスポーツ競技団体、文化団体
- ◎部活動指導員や外部指導者、地域人材等
- ◎総合型地域スポーツクラブ等

2：どのようなゴールを設定しているのか？（めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど）

宮津市の子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しみ続けるために、今後の中学校部活動については、段階的に『地域クラブ活動』として移行を進め、地域と連携した持続可能な部活動の在り方を目指す。

- ① 学校部活動の地域移行に向けた文化・スポーツ環境の整備
- ② 将来にわたり子どもたちがスポーツ、文化活動に継続して親しむ機会の確保
- ③ 地域の多様なスポーツ環境、文化環境の整備、多様な体験機会の実現
- ④ 学校部活動の意義の継承、発展、新しい価値観の創出
- ⑤ 文化・スポーツ活動を通して学校と地域の協働活動の推進

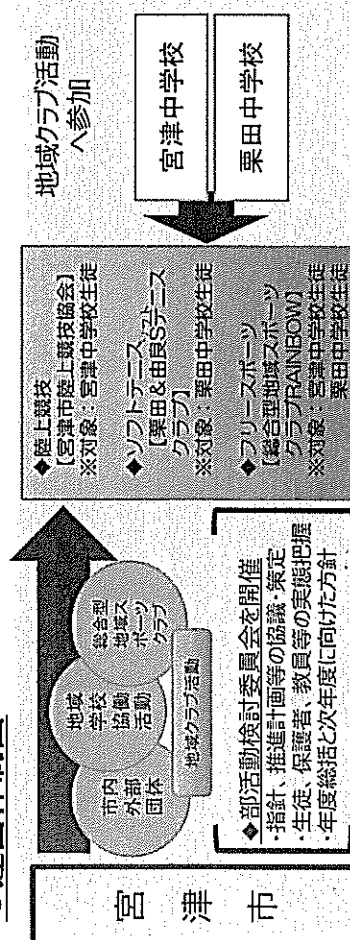
具体的な活動内容

- ◎スポーツ協会（競技団体）と連携した活動
- ◎地域学校協働活動の一環として設置した活動
- ◎総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツ活動

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

昨年度までは、生徒や教員等への実態調査、学校、関係団体との協議、京都府部活動ADの助言等をもとに課題の整理を進めてきた。今回の実証事業を通し、本市の実態に合わせた取組を行いながら、宮津市ならではの地域クラブ活動の形を作っていきたい。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組 1 例）

- (1) 運営類型：陸上競技団体が主導で運営
- (2) 運営主体：宮津市陸上競技協会
- (3) 種目：「陸上競技」
- (4) 指導者の主な属性：陸上競技協会指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月2回程度
- (6) 主な活動場所：宮津中学校
- (7) 主な移動手段：徒歩、保護者送迎等
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：一円/年 ※実証事業経費より
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,200円～1,850円

京都市地域クラブ活動推進検討委員会における事業実施状況報告（概要）

宇治田原町

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

本町は人口10,000人未満で町内に小学校が2校、中学校が1校という小さな町である。今後も生徒数（現在213名）の減少が予測される中、生徒へ専門的な指導を継続して提供するには、地域人材の確保が最大の課題となる。また、1町1中学校であることや、地理的に他市町への移動が容易でないことから、合同部活動等とは実施できない中で、全面的に地域移行した際の受益者負担について理解を得るには、丁寧な周知説明が必要となる。

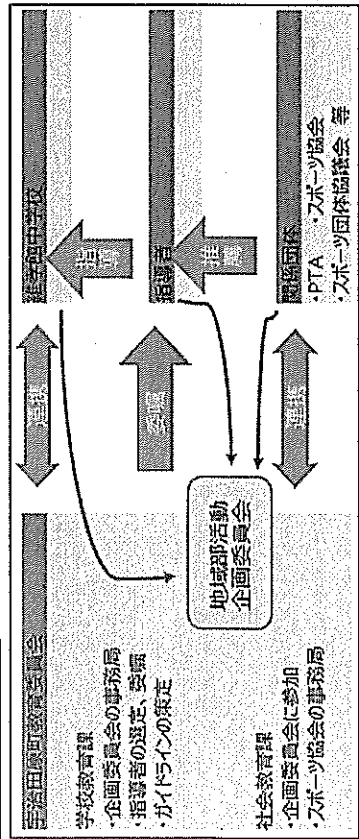
2：どのようなゴールを設定しているのか？（めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど）

- ・平日も含め、現在の全部活動の地域移行を目指す。
- ・地域人材を発掘し、教職員の兼職兼業の仕組みづくりも含め、人材バンクを設立する。
- ・現状の地域連携のスタイル、市町村が主導して部活動指導員を学校に配置する「宇治田原スタイル」が現状のニーズに合っている。

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

- ・コーディネーターを中心に校長と指導者等で綿密に打合せを行い、ガイドラインをもとに学校管理下・管理外の棲み分け、事故があった際の対応等を含め、今後の活動及び地域移行の推進の指針とした。
- ・生徒、保護者に混乱が生じないよう、新入説明会、部活動体験、入学式、保護者会を通じて、地域移行についての説明や指導者の紹介を行う。
- ・4月から新たに外部指導者1名が顧問とともに活動するとともに活動することで6月から町指導者へとスムーズに移行でき、1名を追加することで体制が強化された。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組 1例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：宇治田原町教育委員会
- (3) 種目：バレーボール
- (4) 指導者の主な属性：地域指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：8回（男女各4回）
- (6) 主な活動場所：町立維孝館中学校体育館
- (7) 主な移動手段：自転車又は徒歩
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円

京都府地域クラブ活動推進検討委員会における事業実施状況報告（概要）

精華町

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

- ・現状 - 生徒数の減少で学校単独での活動や大会参加が困難、部活動数の地域格差、募集停止から廃部となる部活動が発生
- ・課題 - 少子化が進む中、地域でスポーツ（文化芸術活動）に継続して親しむことができる環境づくりが必要
- ・資源 - 既に地域で活動しているスポーツ協会傘下の各種スポーツクラブや指導力のあるスポーツ協会職員など

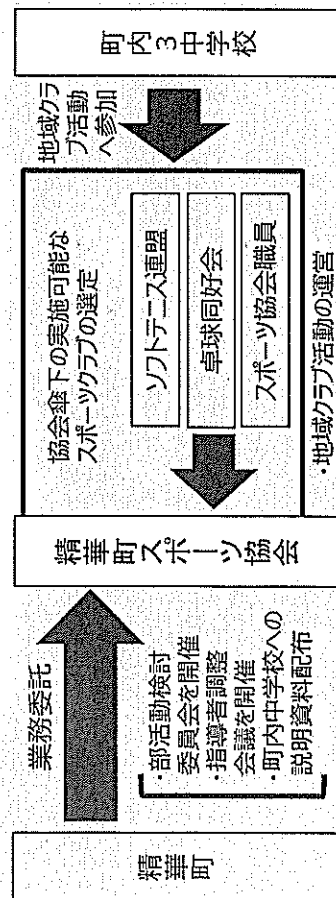
2：どのようなゴールを設定しているのか？（めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど）

- ・休日に中学生が地域でスポーツ（文化芸術活動）に継続して親しむことができる状態
- ・現在、実証事業で行っている3種目の実証事業により、実際に試行してみた上での課題等を抽出し、その点を踏まえて、スポーツ協会傘下の各種スポーツクラブから部活動の地域移行の受け皿として参画可能なクラブチームなどの追加登録を行い、このスキームを継続させる。

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

- ・中学生の部活動の選択に資するような、各種スポーツクラブの紹介方法やクラブチーム、競技種目の増加

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組 1例）

- (1) 運営類型：体育・スポーツ協会運営型
- (2) 運営主体：精華町スポーツ協会
- (3) 種目：ソフトテニス
- (4) 指導者の主な属性：部活動指導員、協会傘下のクラブチームリーダーなど
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：2回
- (6) 主な活動場所：中学校テニスコート
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車、父兄の送迎など
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：1,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,850円

11：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

- ・町内には３中学校あり、３校ともに吹奏楽部があり力を入れて活動している。
- ・少子化により生徒数が減少し、活動が困難な学校がある。一方では多くの部員数となっている学校がある。
- ・町内の小中高吹奏楽部連携による演奏会などの開催、福祉施設への訪問などを行っており、吹奏楽に対しての町民の意識、理解度や期待が高まっている。
- ・小中高を対象に、けいはんな地域を吹奏楽で盛り上げたいという目的で立ち上げられた民間の楽団を、部活動改革の受け皿として推進を図る。

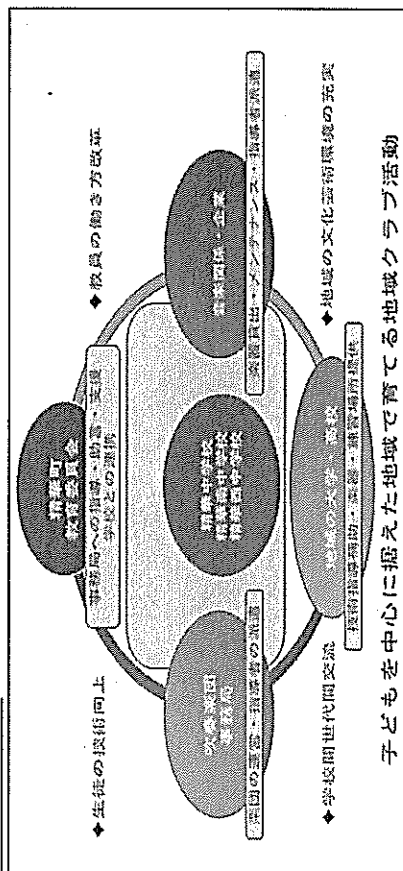
2: どのようなゴールを設定しているのか？ (めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど)

- ・地域に広く楽団の活動の理解を深め、楽団の地域貢献の活動を通じて、持続可能な環境を整える。

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

- ・改革移行期間は、休日・部活動と実証事業が両方行われており、部活動と実証事業団体の取組みが異なるため、相互の調整が難しく、実証事業への参加率は伸びていないため、可能な限り両立できるよう、練習時間等の調整を早期にかつ計画的に進めることしたい。
- ・指導者、教師、先輩、他校生徒と交流をすることでコミュニケーション能力や人とかかわる能力を高める機会とする。
- 中学校施設の活用を計画的に行うことができた。

圖書制度



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組1例）

- (1) 運営類型：民間事業者運営型
- (2) 運営主体：けいはんなユースウィンドオーケストラ(MyRhythm音楽事務所)
- (3) 種目：吹奏楽
- (4) 指導者の主な属性：専門の楽器講師
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：3回
- (6) 主な活動場所：京都廣学館高等学校
- (7) 主な移動手段：保護者による送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等(年額)：30,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者一円

京都市地域クラブ活動推進検討委員会における事業実施状況報告（概要）

福知山市

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

地域の現状と課題

○平成18年に1市3町が合併し、府内3位の面積552.5Km²、人口約7万5,000人の市である。

市立中学校は9校あり、全校生徒が2校は550人程度であるが、3校は200人前後、4校は1学年1学級の50人前後である。

○部員数

種目によっては、部員数の減少が顕著である。

→既存の部活動の種目の中には、合同チームや地域クラブ化しても存続していくことが厳しい。

○各協会・連盟の状況について

各協会・連盟で高齢化が進んでおり、比較的若い協会員等に負担が偏っている種目もある。

→競技人口が減ってきていることについて、有効な対応ができていない。

○移動手段

市内を巡回する公共交通機関が整っておらず、移動に車を使用している状況である。

→スクーター・バスの利用の限界もあり、保護者送迎に頼らざるを得ないところもある。

2：どのようなゴールを設定しているのか？（めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど）

R8年度までに既存部活動の全種目において実証を実施する予定→R9年度以降の休日の部活動の地域移行を目指している。

【めざすところ】

○競技力向上を主眼におくのではなく、誰もが多様な種目を楽しめる。

○部活動からの移行ではなく、生涯スポーツにおける中学生時代の文化・スポーツの新たな取組みを行う。

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

今年度新たに試みた(る)こと

○実証種目の追加(R5年度2種目→R6年度7種目)

○学校から会場までの送迎を保護者に依頼

○各種目の協会・連盟に、指導者を推薦してもらい、また運営の一部を担ってもらった。

○既存の部活動にない種目(男子バレーボール)の実証を行った。

○顧問が兼業兼職をせず、指導者を外部から確保した。

○小学6年生体験会の実施(予定)

→複数種目を体験できる機会の提供

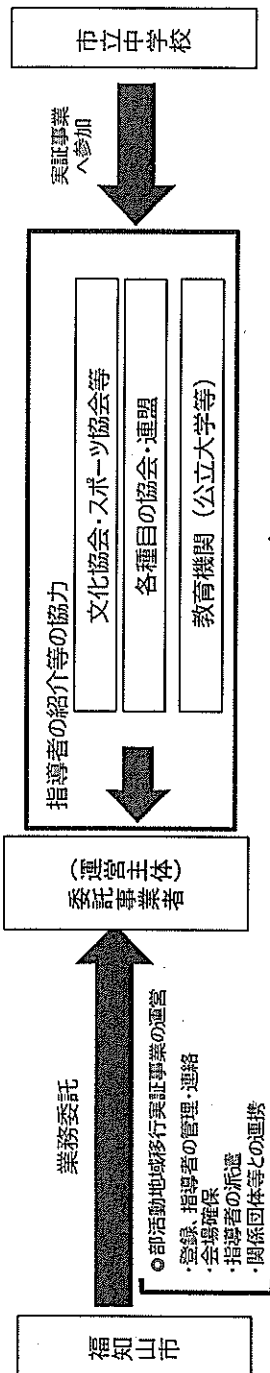
次年度新たに取り組みたいこと

○実証業務の運営委託

○単独でチーム編成ができる学校に対する部活動の検討

○既存の部活動ではなく、生徒のニーズを踏まえた文化・スポーツ種目の実証

○福知山公立大学・市内高等学校等との連携など



京都府地域クラブ活動推進検討委員会における事業実施状況報告（概要）

舞鶴市

1：地域の現状とそれを踏まえた地域課題、地域で活用できる資源など

- ・地理的な課題…舞鶴は東西に分かれており移動に時間がかかる。自転車での移動が難しい。加佐・若浦校区からの保護者送迎が難しい。
- ・地域人材の課題…競技によってはクラブチームが存在するが、すべての受け皿にはなっていない。指導はしてもいいが責任を持つのに抵抗があるという人が多い。
- ・学校の課題…学校での出場が便利な大会が多く、教師が指導・引率せざるを得ない状況がある。そのため、休日の部活動を停止することに難しさがある。
- ・持続可能な体制づくりの課題…各競技団体やチームが、指導者や活動場所の確保・活動費や報酬の徴収などの諸課題を克服しなければならぬ。

2：どのようなゴールを設定しているのか？（めざす姿・ロードマップ・構築しようとする仕組みなど）

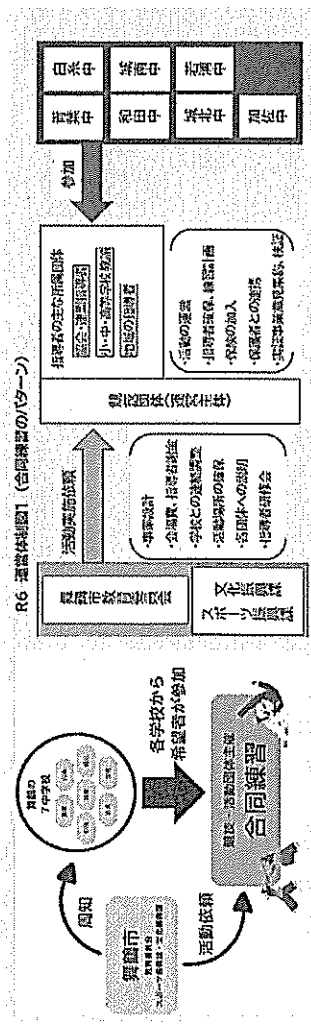
- ・めざす姿…単一の競技や分野に専念でき、競技力向上を目指したり楽しんできたりできる環境や、複数の競技や分野から多種多様な選択ができるような環境を整え、これまでの学校部活動では取り組めなかった活動も広げ、舞鶴ならではの中学生のスポーツ・文化活動を構築する。

- ・ロードマップ…令和8年度2学期より休日の学校部活動を地域クラブ活動に移行を目指す。そのために、現小学6年生に中学校入学前に周知をする。
- ・構築しようとする仕組み…各競技や分野ごとにスポーツ団体・文化芸術団体等が中学校教員とともに実証実験を繰り返しながら、より良い姿を考えていく。

3：昨年度（過去）を踏まえて、今年度、工夫した点や新たに試みたこと、また次年度以降に取り組みたいこと。

- ・昨年度まで…実施可能な競技団体ややってみようという地域指導者の協力で、様々なパターンの協会・連盟・地域指導者による実証事業を行ってきた。
- ・今年度…実施可能な競技や活動で年間を通して実証実験を行っている。（柔道は全休日で実施、合気は計画的に実施、剣道は部活との併用で実施）
- ・来年度…各競技ごとに取り組みできた実証実験を舞鶴市全体で一斉に取り組み予定である。2か月間休日の学校部活動を停止し、学校・スポーツ団体・文化芸術団体・クラブチーム等が協力し、舞鶴市のめざす姿の実証実験を行う。その成果と課題を8年度2学期から目指す本格移行に活かす。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組1例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：舞鶴柔道連盟
- (3) 種目：柔道
- (4) 指導者の主な属性：連盟指導員・教員・自衛隊等
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：4回（毎週土曜日）
- (6) 主な活動場所：舞鶴文化公園体育館 柔道場
- (7) 主な移動手段：各自（自転車・保護者送迎等）
- (6) 1人あたりの参加費等（年額）：0円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1200円